

令和6年度 中野区立学校 学校経営計画 （報告書）

学校教育目標	●学校の教育目標● 様々なかかわりを通して自他のよさを認め、自分に自信をもち、主体的に学び、心身ともに健康で、日本の未来を切り拓く心豊かな人間の育成を目指す。 ◎考える子(重点) ◎やさしい子 ◎元気な子		
目指す子ども (幼児・児童・生徒)像	◎ つよくやさしいしなやかな子 …自己肯定感・自己有用感をもち、自己の成長を自覚している子 【考える子】○ 基礎・基本的な学力を身に付け、学び合い、思考を深め、表現する子 【やさしい子】○ 互いのよさを認め合い、思いやる子 ○ あいさつ、言葉遣い、自主的・自律的に活動する子 【元気な子】○ 心身ともに健康で、進んで体を動かし、最後までやり抜く子	目指す学校 (教師像を含む)	○ 子供が学ぶ喜びに満ちた楽しい学校 ・わかる 学習、自己の成長 ・できる 学習、挨拶、言葉遣い、自律的行動 ・つながる 友達、教職員 → 安心 ○ 教育環境の充実に努める学校→ 安全 ・校舎内外の整美 ・切磋琢磨と学び合い → 安心・子供の向上的な変容 ○ 教職員が生き生きと勤務する学校 ・共育・協力と協働 → 一人一人の持ち味の発揮 ・子供の向上的な変容 → 達成感・成就 ・校務の整理 → 子供との時間の確保感 ・子供の受容 → 子供目線での思考と対応 ○ 家庭や地域に信頼される学校 ・家庭や地域との連携 ・家庭や地域への情報発信・情報公開
教育目標を達成するための基本方針	●教育目標を達成するための心構えと実践● 1 こつこつ努力！一つ一つをやりきる！ ～日々の授業・実践で子供を変える～ ◎楽しい授業・わかりできる授業・力のつく授業の創造 → 子供自らが成長を実感できる授業 ◎楽しく充実感の味わえる学級・学年・学校行事の創造 2 チーム一丸！～チーム北原として、一貫性のある教育で子供を伸ばす(学習指導・生活指導)～ ○教職員の個性は大切にしつつ、すべての教職員の共通理解に基づいた実践 ○子供の伸ばすためのクリエイティブな教育実践 ○校務の効率化のため、教職員が、自分の分掌に責任をもって取り組めるように、校務改善を行う。 ○自他のライフ・ワーク・バランスを考え、計画的・協働的に行う教育実践(働き方改革)		

今年度の重点

A 重点目標		B 中期経営目標 (数年間でどのような状態にするか)	C 短期経営目標 (今年度末までにどのような状態にする)
1	【知(確かな学力)】 学習において、誰一人として残さず、高まる実感をもたせ自信をもたせる。 ⇒OJTや校内研究を通して主体的・対話的で深い学びに向けた授業力を付ける。基礎的・基本的な学力を付けさせるため「言語活動の充実や個別の習熟時間・環境」設定する。読書活動を充実させる。	読書活動が充実し、児童が読書を好きになり読書量が増える。効果的にミライシードを使った授業がどの教員も行うことができる。	読書活動の年間指導内容の改善がなされ、教育課程に明確に位置付ける。ミライシードの活用実践を積み重ね、効果的な活用方法を教員が実感する。
		OJTや校内研究を通して主体的・対話的で深い学びに向けた授業力を付ける。	校内研究や指導教諭の模範授業を全教員が1回以上参観し、体的・対話的で深い学びに向けた授業のイメージを全教員がもつ。
2	【徳(豊かな人間性)】 間違い、失敗を恐れず、主体的に行動できる子に育てる。 ⇒「学級経営・生活指導・学習指導」、「特別活動・行事」の質の向上を図る。	多くの学校生活で、児童が「自己選択・自己決定」する場面が見られ、児童が自律的な学びをしている。	校内研究で「主体的に学習に取り組む児童の育成」をテーマに、徹底的に研究し、どの教員も「北原小の児童像」について明確にもつことができる。
		発達支持的生徒指導が定着し、児童が自己指導能力を付けている。組織的・計画的に特別活動が行われている。	特別活動・生活指導・学習場面で、主体的に活動できる環境・手立てについて、実践を積み重ね、教員間で共通の認識をもつ。
3	【体(健康・体力)】 丈夫で健康な体の育成する。 ⇒体を動かすことの喜びを味わわせ、身体技能が向上する授業の創造・技能と思考が向上する系統的な体育の授業や基礎的な身体能力の育成と身体技能を向上させる。行事の実施・子供が充実感・達成感をもつ運動会の実施。	児童に、体を動かすことの喜びを味わわせ、身体技能が向上する授業の創造・技能と思考が向上する系統的な体育の授業や基礎的な身体能力の育成と身体技能を向上させている。	児童が充実感・達成感をもつ運動会となるよう取り組み、振り返りながら、改善・系統化し、次年度教育課程に反映させる。
		効果的な、体力向上の取組が確立し、児童が、体力の向上のための目標をもち、それに向けて取り組むことによって高まりを感じている。	体力向上月間、「投」を中心としたアクティブ運動、持久走運動(ランニングフェス)、なわとび運動(短なわ・長なわ)、食育について、実践し、振り返りながら、改善・系統化し、次年度教育課程に反映させる。
4	【学校における働き方改革】 校務の効率化のため、教職員が、自分の分掌に責任をもって取り組めるように、校務改善を行う。	年間を見通しての各分掌の仕事内容、会議の内容が明確になり、組織的・計画的に学校運営が行われている。テムの出退勤集計を毎月各教員に示し、振り返らせ、自己申告の内容管理をさせ、年間をとおして、1か月の平均時間外総勤務時間が45時間を切る教員を8割以上にする。	教職員それぞれの分掌を明確にし、組織的・計画的に取り組めるように、校務改善を行う。(校務分掌の仕事内容の洗い出し。校務組織図の再編、スプレッドシートを活用した会議、データ保管場所・構成の明確化)年間をとおして、1か月の平均時間外総勤務時間が45時間を切る教員を7割以上にする。
5	【保幼小中連携】 保幼小の連携を図り、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について共有し、育てたい資質・能力を明確にしながら、学びと育ちをつなぐスタートカリキュラムを作成・実施する。また、園児と児童の交流会を計画的に行う。中学校とも連携を行う。	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について園と共有し、育てたい資質・能力を明確にしながら、学びと育ちをつなぐスタートカリキュラムを修正・実施する。また、園児との交流の場面が工夫され、低学年児童の自己有用感が付いている。オープンキャンパス・乗り入れ授業に加え、行事での連携など、本校独自の連携が確立している。	幼保小中連携について、改善・体系化し、次年度教育課程には、明確に位置付ける。
6	○地域との連携 地域(商店街等)とのつながりが強い面を生かし、さらに連携を図り、児童が地域のことを自分ごととして考え、行動できるように育成する。	90周年事業について、子供たちの「自己選択・自己決定」の場としながら、同窓会、地域、PTAと連携しながら、誰もが参加意識をもちながら取組、心動かされる事業となっている。	音楽団(鼓笛隊)、町たんけん、お店たんけん、おやじの会の職業紹介、野方地区まつりについて、地域と連携して取り組む。また、90周年事業に向け、同窓会・地域・PTAと連携し、組織的に取り組むことができるよう地固めをする。
7	○共生・共同 特別な支援が必要な児童、医療ケアが必要な児童の特性を児童相互が理解を深められるようにし、共同的に学習・生活できるよう育成する。	特別支援について、手続きや校内委員会の検討内容も含め、支援体制を明確にするとともに、全教員が常時、合理的配慮を意識した教育活動ができている。また、登校支援について、組織的に対応でき、不登校児が0になっている。	特別支援について、合理的配慮について、啓発する研修を行う。また、登校支援について組織的に対応する。

重点目標を達成するための今年度の取組と評価基準・評価結果

A 重点	C短期経営目標(年度末までにどのような状態にするか)	具体的な方策	具体的な取組		成果		自己評価				学校関係者による評価			
			評語	取組に関する指標 (可能な限り数値で)	評語	成果指標(可能な限り数値で)	取組指標		成果指標		考察(コメント)	改善策	評語	主な意見
							中間	年間	中間	年間				
1 知 (確かな学力)	読書活動の年間指導内容の改善がなされ、教育課程に明確に位置付け。ミライシードの活用実践を積み重ね、効果的な活用方法を教員が実感する。	・ミライシード等デジタル技術を活用し、習熟や活用、探究、発信など様々な場面で1人1台端末を活かし、個別最適な学びをさせるために、自己申告の授業観察で、全校級デジタル技術活用の授業を行わせる。	A	年度内に100%の教員がデジタル技術を活用した授業ができている。	A	年度末には全児童の使用に関する肯定感8割以上となる	B	A	B	A	児童アンケート「学習で上手にiPadを利用できましたか。」で91%肯定的であった。「デジタル技術を活用した授業ができていますか。」の問いに8割弱が肯定的であった。	読書活動の取組は充実し、読書量も増えている。一方、児童アンケート「たくさん本を読みましたか。」で66%肯定的にとどまっている。まだ伸びしろがあると考える。環境の設定や時間の確保をさらに工夫していく必要がある。	A	★ipadの活用等成果が可視化されやすいため、評価しやすい分野である。★読書習慣は学校の活動だけでなく家庭との協力が必要。教職員が目的を意識し学びながら指導に臨んでることが素晴らしい。★何冊読んだかポイントをつけるのも達成感につながり読書量も増えるのでは。
			B	年度内に80%の教員がデジタル技術活用した授業ができている。	B	年度末には全児童の使用に関する肯定感7割以上となる								
			C	デジタル技術を活用した授業の交流が、3回以上できている。	C	年度末には全児童の使用に関する肯定感5割以上とな								
			D	ミライシードの活用がほとんどされていない	D	年度末には全児童の使用に関する肯定感5割未満にとどまる。								
	校内研究や指導教諭の模範授業を全教員が1回以上参観し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業のイメージを全教員がもつ。	指導教諭の模範授業を全教員が1回以上参観し、主体的・対話的で深い学びの視点で、夕食等でプレゼンし合い、共有する。	A	年度内に100%の教員が参観し、報告・交流が十分できている。	A	年度末の職員アンケートで、主体的・対話的で深い学びについて、イメージできているかという問いに9割以上が肯定的に答えている。	A	A	B	A	・指導教諭の模範授業の参観は、全教員が参観し、参観後の還元方法も確立した。職員アンケート「子供が意思決定する場面を意図的に取り入れ、実践ができましたか。」で、100%肯定的であった。	めざす学習のイメージはできたものの、計画的で効果的な実践までいかないこともあるので、実践力をつけていく。	A	
			B	年度内に100%の教員が参観して、一部は報告・共有ができている。	B	年度末の職員アンケートで、主体的・対話的で深い学びについて、イメージできているかという問いに7割以上が肯定的に答えている。								
			C	年度内に5割以上の教員が参観し、報告・交流が一部できている。	C	年度末の職員アンケートで、主体的・対話的で深い学びについて、イメージできているかという問いに5割以上が肯定的に答えている。								
			D	年度内に数名の教員が参観し、報告・交流がほとんどされていない。	D	年度末の職員アンケートで、主体的・対話的で深い学びについて、イメージできているかという問いにほとんどが肯定的に答えていない。								
2 徳 (豊かな人間性)	校内研究で「主体的に学習に取り組む児童の育成」をテーマに、徹底的に研究し、どの教員も「北原小の児童像」について明確にすることができる。	学級・専科経営案の作成、積極的な生活指導	A	自己申告書と同時に学級・専科経営案を100%の教員が提出し、共有し合い、互いの経営に生かしている。	A	年度末の児童アンケートで、失敗を恐れず進んで行動できたかという問いに9割以上が肯定的に答えている。	B	B	B	B	児童アンケート「熱中して授業に取り組めていますか。」で、89%が肯定的であったが、児童の自信に十分つながっていない。	互いに空き時間に授業を見合う動きも出てきた。OJTとともに、より内容を充実していく。また、来年度に向け、習熟タイムを生活時程に入れ込む。	A	★人としてとても重要な面であるが、評価しにくくむずかしい。地道な積み重ねでしか人は徳を積めないし評価向きでない。でもがんばって思う。★子どもたちの自己肯定感が上がらない理由は何？教師と児童の実感が異なる原因は何？教師の苦労を察する。
			B	自己申告書と同時に学級・専科経営案を100%の教員が提出し、共有し合うこととどまっている。	B	年度末の児童アンケートで、失敗を恐れず進んで行動できたかという問いに7割以上が肯定的に答えている。								
			C	自己申告書と同時に学級・専科経営案を提出する教員が100%に達していない。	C	年度末の児童アンケートで、失敗を恐れず進んで行動できたかという問いに5割以上が肯定的に答えている。								
			D	自己申告書と同時に学級・専科経営案を提出する教員が5割に達していない。	D	年度末の児童アンケートで、失敗を恐れず進んで行動できたかという問いに5割未満が肯定的に答えている。								
	特別活動・生活指導・学習場面で、主体的に活動できる環境・手立てについて、実践を積み重ね、教員間で共通の認識をもつ。	特別活動・生活指導・学習場面で、主体的に活動できる場を多く設定する。	A	子供が意思決定する場面を意図的に取り入れ、年間で30実践以上ある。	A	年度末の児童アンケートで、主体的に活動できたかという問いに9割以上が肯定的に答えている。	B	A	B	B	職員アンケート「子供が意思決定する場面を意図的に取り入れ、実践ができましたか。」で、100%肯定的であった。児童アンケート「学校の学習や生活で、自分から進んで行動ができましたか。」で、88%肯定的であった。	良いアイディアが出されることが多いが、児童がやりきったという実感が残るまで、実践をやりきること。	A	
			B	子供が意思決定する場面を意図的に取り入れ、年間で10実践以上ある。	B	年度末の児童アンケートで、主体的に活動できたかという問いに7割以上が肯定的に答えている。								
			C	子供が意思決定する場面を意図的に取り入れ、年間で30実践未満にとどまっている。	C	年度末の児童アンケートで、主体的に活動できたかという問いに5割以上が肯定的に答えている。								
			D	子供が意思決定する場面が、ほとんど設定できていない。	D	年度末の児童アンケートで、主体的に活動できたかという問いに5割未満が肯定的に答えている。								
3 体 (健康・体力)	児童が充実感・達成感をもつ運動会となるよう取り組み、振り返りながら、改善・系統化し、次年度教育課程に反映させる。	児童が充実感・達成感をもつ運動会となるよう取り組み、振り返りながら、改善・系統化し、次年度教育課程に反映させる。	A	運動会で、児童が充実感・達成感をもてるよう、どの学年も係も計画的に取り組む、効果が出ている。	A	運動会の児童アンケートで、自分の力を出し切って取り組みましたが、という問いに8割以上肯定的な答えをしている。	c	C	c	A	児童アンケート「運動会で自分の力を出し切る事ができましたか」で91%肯定的だった。	運動会では、保護者から「もっと熱く活躍する場が見たかった」と意見があった。子供たちがやりきれよう計画することが課題。	A	★「自分の力を出し切る」、「やりきる」ということを子どもにさせようとすると「押しつけ」といわれる現在において、この課題も難しいと思う。★健康・体力も実際に身についた結果だけでなく、誰かに認められることで「成果」と感じ向上心につながると思う。★運動会ではリレーなど走る競技があると保護者も子どもも盛り上がるのでは。
			B	運動会で、児童が充実感・達成感をもてるよう、どの学年も係も計画的に取り組むも、効果が出ているのは限定的である。	B	運動会の児童アンケートで、自分の力を出し切って取り組みましたが、という問いに6割以上肯定的な答えをしている。								
			C	運動会で、児童が充実感・達成感をもてるよう計画的に取り組んでいない学年がある。	C	運動会の児童アンケートで、自分の力を出し切って取り組みましたが、という問いに5割以上肯定的な答えをしている。								
			D	運動会で、児童が充実感・達成感をもてるよう計画的に取り組んでいる学年がほとんどない。	D	運動会の児童アンケートの運動会で、自分の力を出し切って取り組みましたが、という問いに5割未満肯定的な答えをしている。								
	体力向上月間、「投」を中心としたアクティブ運動、持久走運動(ランニングフェス)、なわとび運動(短なわ・長なわ)、食育について、実践し、振り返りながら、改善・系統化し、次年度教育課程に反映させる。	体力向上月間、「投」を中心としたアクティブ運動、持久走運動(ランニングフェス)、なわとび運動(短なわ・長なわ)、食育を手効果的に行う。	A	体育的行事委員会や食育の予定していた取組以外にも、よりよいアイディアが出され、効果が表れている。	A	年度末の児童アンケートで、体力が高まりましたか、という問いに8割以上肯定的に答えている。	c	A	c	A	職員アンケート「体育行事委員会などで予定以外にもより良いアイディアが出され、効果が出ていますか」で94%肯定的。児童アンケート「去年より体を動かすことができましたか」で87%肯定的であった。	コオーディネーションントレーニングなど、工夫しながら体力向上の意欲が高まるようにする。	A	
			B	体育的行事委員会や食育の予定していた取組が行われ、効果が表れている。	B	年度末の児童アンケートで、体力が高まりましたか、という問いに6割以上肯定的に答えている。								
			C	体育的行事委員会や食育の予定していた取組が行われたが、効果が表れていないものもある。	C	年度末の児童アンケートで、体力が高まりましたか、という問いに5割以上肯定的に答えている。								
			D	体育的行事委員会や食育の予定していた取組が行われていないものもある。	D	年度末の児童アンケートで、体力が高まりましたか、という問いに5割未満肯定的な答えをしている。								
4 働 き 方	教職員それぞれの分掌を明確にし、組織的・計画的に取り組めるように、校務改善を行う。年間をととして、1か月の平均時間外総勤務時間が45時間を切る教員を7割以上にする。	校務分掌の仕事内容の洗い出し。校務組織図の再編、スプレッドシートを活用した会議、データ保管場所・構成の明確化をする。	A	校務組織図の再編、スプレッドシートを活用した会議、データ保管場所・構成の明確化が行われ、働き方改革に効果が出ている。	A	年間をととして、1か月の平均時間外総勤務時間が45時間を切る教員を8割以上となっている。	B	A	c	A	職員アンケート「校務組織図の再編、スプレッドシートを活用した会議、データ保管場所・構成の明確化が行われ働き方改革に効果が出ているか。」で94%肯定的であった。・12月の時間外総勤務時間が45時間以下を89.4%(平均20.8時間)であった。63時間の教員が1名いた。	さらに、来年度に向け、校務分掌を確実な引き継ぎ、組織図の再編成、データ保管フォルダーの再編をしていく。	A	★いろいろ求められる【学校】という存在。9時～17時と時間で区切ってもよいと考える。★多岐に渡る仕事量の多さに驚いている。
			B	校務組織図の再編、スプレッドシートを活用した会議、データ保管場所・構成の明確化が行われ、一定の効果が上がったが、まだ改善の余地が大きい。	B	年間をととして、1か月の平均時間外総勤務時間が45時間を切る教員を7割以上となっている。								
			C	校務組織図の再編、スプレッドシートを活用した会議、データ保管場所・構成の明確化について、いくつか行われなかった。	C	年間をととして、1か月の平均時間外総勤務時間が45時間を切る教員を5割以上となっている。								
			D	校務組織図の再編、スプレッドシートを活用した会議、データ保管場所・構成の明確化について、ほとんど行われなかった。	D	年間をととして、1か月の平均時間外総勤務時間が45時間を切る教員を5割未満となっている。								
5 保 幼 小 中 連 携	幼保小中連携について、改善・体系化し、次年度教育課程には、明確に位置付ける。	スタートカリキュラム、園児との交流、幼稚園と保育園との連携協議会、行事の連携、職場体験、オープンキャンパスについて、実践する。	A	スタートカリキュラム、園児との交流、幼稚園と保育園との連携協議会、行事の連携、職場体験、オープンキャンパスについて、効果的に実践できている。	A	年度末の職員アンケート、保幼小中連携は、十分効果的に行うことができたと思いますが、質問に9割以上肯定的な答えとなっている。	A	B	B	B	職員アンケート「スタートカリキュラム、園児との交流、保幼小中連携について効果的に実践できているか。」で82%肯定的であった。児童アンケート「保育園や幼稚園の人と仲良くできましたか。」で84%肯定的であった。保幼小連携協議会での発表をきっかけにスタートカリキュラムについて改善・定着ができた。小中連携協議会では、教科ごとの分科会を設け、カリキュラム連携について話し合うことができた。	小から保幼に出向き交流を深める機会を増やしていく。	A	★人の育ちに関わる仕事は点でなく線から面へと広がっていく。大変な仕事です。★幼児期に育ってほしい姿について考えることも小学校の役割であることに驚いた。小へのスタートにあたり幼保小の連携が重要。
			B	スタートカリキュラム、園児との交流、幼稚園と保育園との連携協議会、行事の連携、職場体験、オープンキャンパスについて、一部で定着はあったことはあるが効果的に実践できている。	B	年度末の職員アンケート、保幼小中連携は、十分効果的に行うことができたと思いますが、質問に7割以上肯定的な答えとなっている。								
			C	スタートカリキュラム、園児との交流、幼稚園と保育園との連携協議会、行事の連携、職場体験、オープンキャンパスについて、一部で定着はあったことはあり、効果的に実践できていない。	C	年度末の職員アンケート、保幼小中連携は、十分効果的に行うことができたと思いますが、質問に5割以上肯定的な答えとなっている。								
			D	スタートカリキュラム、園児との交流、幼稚園と保育園との連携協議会、行事の連携、職場体験、オープンキャンパスについて、ほとんど実践できておらず効果的にについても課題が残っている。	D	年度末の職員アンケート、保幼小中連携は、十分効果的に行うことができたと思いますが、質問に5割未満肯定的な答えとなっている。								
携6 地 域 と の 連	音楽団、町たんけん、お店たんけん、おやじの会の職業紹介、野方地区まつりについて、地域と連携して取り組む。また、90周年事業に向け、同窓会・地域・PTAと連携し、組織的に取り組むことができるよう地固めをする。	児童が地域を自分ごととしてとらえられるよう、生活科、総合的な学習の時間など、カリキュラムマネジメントをしながら、教育課程に位置付ける。	A	生活科、総合的な学習の時間など、児童が地域を自分ごととして考えられるような実践が十分とらえられているが、カリキュラムマネジメントをしながら教育課程に位置付けは不十分である。	A	年度末の職員アンケート、地域のことを自分ごととしてとらえる活動ができたか、という問いに、8割以上肯定的な答えをしている。	B	B	c	B	児童アンケート「地域の学習について、よく学習できましたか。」で肯定的が91%、職員アンケート「地域行事、生活科、総合などカリキュラムマネジメントしながら、児童が地域を自分ごととして考えられるよう実践ができていますか」で70%肯定的であった。	来年度に向け、地域人材を活用したキャリア教育を軸にカリキュラムマネジメントを始めている。	A	★地域との連携「地域へ」と国は言うが、地域に住んでるだけで地域とは言えない。地域、学校、世の中の状況、その他を考え、結び付けていける人の育成、簡単ではない。焦らず一歩を！★合理的配慮とは具体的にどのようなことか知りたい、
			B	生活科、総合的な学習の時間など、児童が地域を自分ごととして考えられるような実践が十分とらえられているが、カリキュラムマネジメントをしながら教育課程に位置付けは不十分である。	B	年度末の職員アンケート、地域のことを自分ごととしてとらえる活動ができたか、という問いに、7割以上肯定的な答えをしている。								
			C	生活科、総合的な学習の時間など、児童が地域を自分ごととして考えられるような実践が十分とらえられているが、カリキュラムマネジメントをしながら教育課程に位置付けは不十分である。	C	年度末の職員アンケート、地域のことを自分ごととしてとらえる活動ができたか、という問いに、5割以上肯定的な答えをしている。								
			D	生活科、総合的な学習の時間など、児童が地域を自分ごととして考えられるような実践がほとんどできていない。	D	年度末の職員アンケート、地域のことを自分ごととしてとらえる活動ができたか、という問いに、5割未満肯定的な答えをしている。								
7		校内委員会の回数・検討内容、コー	A	コーディネーターから合理的配慮について、啓蒙する研修を行い、教員が十分理解している。また、登校支援について、一人一人のアセスメントが行われ、情報の共有がされ、組織的に対応している。	A	年度末の職員アンケート、合理的配慮ができたか、という問いに8割以上肯定的な答えがある。とともに不登校児童4名が組織的に連携のもと、改善の方向にある。					職員アンケート「合理的配	校内委員会を少なくとも月1回		

共生・共同	特別支援について、合理的配慮について、啓発する研修を行う。また、登校支援について組織的に対応する。	ディネーターの役割を明確化し、コーディネーターから合理的配慮について、啓発する研修を行う。また、登校支援について、一人一人のアセスメントを行い、情報の共有をし組織的に対応する。	B	コーディネーターから合理的配慮について、啓発する研修を行っている。また、登校支援について、一人一人のアセスメントが行われ、情報の共有がされ、組織的に対応している。	B	年度末の職員アンケート、合理的配慮ができたか、という問いに7割以上肯定的な答えがある、とともに不登校児童4名が組織的に連携がとれている。	c	B	c	A	慮について理解し、一人ひとりのアセスメントが行われ共有されているか」で94%肯定的であった。	定期的に実施する。また、不登校へのアプローチや記録をフォルダ化し、情報共有ができるようにしていく。	A	い。
			C	コーディネーターから合理的配慮について、啓発する研修を行っている。また、登校支援について、一人一人のアセスメントが行われている。	C	年度末の職員アンケート、合理的配慮ができたか、という問いに6割以上肯定的な答えがある、とともに不登校児童4名が組織的に連携がとれている。								
			D	コーディネーターから合理的配慮について、啓発する研修がされていない。また、登校支援について、一人一人のアセスメントが不十分である。	D	年度末の職員アンケート、合理的配慮ができたか、という問いに6割未満肯定的な答えがある、とともに不登校児童4名が組織的に連携が不十分である。								

* 学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の観点で行う。
A 自己評価は適切である B 自己評価は概ね妥当であるが根拠資料が不足している C 自己評価と実態との差が大きい D 自己評価方法を見直す必要がある